

一般社団法人RCFの紹介

藤沢烈（ふじさわれつ）

1975年京都府生まれ。一橋大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て独立し、NPO・社会事業等に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後、RCF復興支援チーム(現・(一社)RCF)を設立し、情報分析や事業創造に取り組む。総務省地域力創造アドバイザーも兼務。

著書に『人生100年時代の国家戦略—小泉小委員会の500日』(東洋経済新報社)、『社会のために働く 未来の仕事のリーダーが生まれる現場』(講談社)、共著に『東日本大震災 復興が日本を変える—行政・企業・NPOの未来のかたち』(ぎょうせい)、『ニッポンのジレンマ ぼくらの日本改造論』(朝日新聞出版)、『「統治」を創造する新しい公共/オープンガバメント/リーク社会』(春秋社)。



一般社団法人RCF

2011年4月、震災復興のための調査団体として発足。現在は復興事業の立案・関係者調整を担う「**復興・社会事業コーディネーター**」として、大手飲料メーカーや自動車メーカー等、10社以上の企業、30以上の被災県/市町村および省庁とともに復興プロジェクトを推進。専任スタッフ37名。



こども宅食の事業概要



東京都文京区と連携し、低所得世帯向けに隔月にて食糧を届ける「こども宅食事業」を2017年度より開始。
ソーシャルワーカーとも連携し、世帯ごとのニーズに合った個別サポートも行う。